

No. 15 平成20年3月 沖縄県衛生環境研究所

衛環研ニュース

Okinawa Prefectural Institute of Health and Environment News

JICA研修『衛生環境分析技術者コース』25年の歩み

当研究所が国際協力機構(JICA)沖縄国際センター(OIC)より委託を受け、1983年より実施してきました集団研修「衛生環境分析技術者コース」が、2007年10月、第25回をもって終了いたしました。1983～2007年の25年間で世界37ヶ国から総勢128名を、長い時で9ヶ月間、最近では3ヶ月間、毎年3～7名の研修員を受け入れてきました。

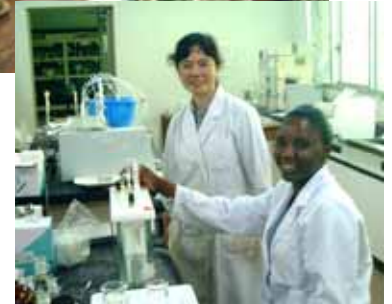
当コースは、1983年当時、JICA OICの設立にあたり、沖縄県、外務省及びJICA(当時：国際協力事業団)の協議の結果、開発途上国で衛生・環境分析に携わる方々を対象に、衛生及び環境の専門知識と分析技術の移転を通して、人材育成を支援することを目的に開設されました。

当コースには、島嶼性や亜熱帯性気候などの自然・風土、戦後復興期における感染症対策の経験などを活かした沖縄県独特の研修内容を含むサブコースがあることが特徴です。研修員は、研修期間の大部分を各サブコースに分かれ、それぞれの研究室にて研修員と当研究所職員がマンツーマンで、講義や実習、そしてレポート作成などを実施し、密度の濃い実りある研修をしてきました。

当初は、定員5名で 環境汚染、食品衛生、感染症、衛生動物、毒ヘビの5サブコースで始まりました。途中、環境分野が「水質汚濁」「土壌流出モニタリング」「大気汚染」、毒ヘビ分野が「蛇毒素及び抗毒素」「毒蛇生態防除」など総数で9サブコースまで増えましたが、最終の2007年度は、定員5名の 感染症、食品化学、水質汚濁、大気汚染の4サブコースで募集が行われ、大気汚染を除く3サブコースでそれぞれ1名の研修員を受け入れました。



上. 施設見学先での説明



右. 各サブコースでのマンツーマン研修

このような研修事業では、派遣国のニーズ、研修員の意欲・能力、研修の受け入れ体制、の三つの条件が揃った時に効果的な研修が実施できるといわれます。現在、感染症や水環境の対策が研修ニーズとして拡大しており、これらの分野で沖縄県がこれまで歩んできた歴史的プロセスなどは有益だと考えられます。しかしながら、これからの集団研修は、単に分析技術者を育成するだけでなく、それぞれの国や地域において対策を推進するための体制づくりまでを支援することが求められています。

従来のサブコース方式では、これらのニーズに十分応えきれないことから、研修受入を終了することとなりましたが、この25年の研修をとおして単に衛生と環境の技術移転だけでなく、私たちが研修員から多くのことを学ぶことができました。

【企画管理班】

目次

JICA研修「衛生環境分析技術者コース」25年の歩み.....	1
米軍基地排水監視調査の実施.....	2
小型刺し網によるハブの捕獲.....	2

感染症法の一部改正と当研究所の取り組みについて..	3
はしか“0”に向けて～はしかにならない、させない～	4